

# 菅茶山顕彰会会報

第 25 号  
発 行

菅茶山顕彰会  
2015年3月1日



朗読劇「天明の篝火」一場面

## 朗 読 劇 「天明の篝火」

神辺ふるさと会らが熱烈公演

昨年三月十六日、神辺文化会館大ホールで藤井登美子原作・大元光代脚色・演出の「天明の篝火」の朗読劇が上演され、収容定員を超える八百有余名の観客を感動させた。

神辺が福山市に合併されて八年、誇りうる郷土の財産の風化を防ごうと地元教育・文化・観光団体が義倉財団の支援を受け、「神辺ふるさと会」(会長 高橋孝一)を結成。その二ヵ月後の結成記念公演。

会長が、「江戸時代、かななべという小さな邑落で、衆望を背に死罪覚悟の上、百姓一揆の指揮を執った義民が五名も出たことを誇りに思う。この劇を観て、是非、家の人や子ども達にも伝えてほしい」と開演のあいさつ。

冒頭、詩吟「天明の飢饉」(藤井游作 吟詠 橋本征竜師範)など劇の時代背景、梗概、主人公を漢詩三題で紹介。

徳永徳右衛門 瀬尾杜石

常時 衆を慈しみ 荒饑を思い

熟慮 敢為 才幹を揮う

苛斂誅求は 篝火を烘す

仁彊の義士 春暉に浴す

未曾有の天災と為政者の失政で窮乏、進退窮まった備後福山藩五郡の全農民、約五万人が一斉に決起した。足かけ二年に及ぶ天明の一揆を一人の犠牲者も出さない類い希な戦術で、見事勝利に導いた徳田村の庄屋 徳永徳右衛門に、儒学者 菅茶山、義倉創設者 河相周兵衛、恵蘇郡の義民 川北左衛門の孫と噂される茶山の弟子 新四郎を配した歴史物語。

地元の吟詠家、蔵王はね踊り保存会、フルート奏者、福山市立湯田小・南小学校児童、福山市立大学生、各種文化団体有志などオールスターキャストで熱演。

江戸表から放たれたと思われる刺客に闇討ちに遭い、臨終間際、駆けつけた周兵衛らに息も絶え絶えに「百姓衆のためにも、わしの死を病死とするように」と言い含め息を引き取った徳永徳右衛門。フィナーレに、臉を熱くする人も。成功裡に旗揚げ興行を締め括った。